平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	11	ー	2

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	言語治療児童援助事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		教育総務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	横田和幸		氏名	大和良成
事業の概要	ことばの発達障がいを持つ児童の早期治療に向けた通級費用の一部助成により、保護者負担の軽減と地区唯一の西紋地区言語治療学級（ことばの教室）の運営・設備維持費の一部負担を行う。			全体計画	/単年度繰返	
				（平成 20 年度～ 24 年度）		
				事業費	国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	1,750 千円
					事業費計	1,750 千円
実施方法	□ 直営	□ 民間委託	■ その他 （ 広域市町村による運営 ）			
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業	□ 非登載事業	優先度	A		
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～			
	基本施策	#	学校教育の充実			
	単位施策	1	小中学校の教育内容の充実			
	事務事業の種類	■ 自治事務	□ 法定受託事務			
	その他計画・根拠等					

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	172 千円	240 千円	181 千円	269 千円	350 千円
	合計	172 千円	240 千円	181 千円	269 千円	350 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	児童・保護者	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	ことばの発達障がい等は早期治療が有効であり、治療を要する児童に通級を促進し、広域で紋別市に設置している言語治療学級への通級に要する経済負担を軽減し、併せて言語治療学級の運営維持を行う必要がある。	ことばの教室通級児童数（言語障害児）の解消		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	ことばの発達障がいを持つ児童の解消と言語治療学級の運営維持。	① 通級児童（障害児）数 H22年度通級によって障がいが解消され、H23年度は通級の必要が無い児童	目標年度	平成23年度
			目標値	3 名
			実績値	0 名
			達成度	0.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	障がいを解消し、正しい発音、表現力、理解力を高め、教育内容の充実につなげる。また、言語治療学級を維持し、通級に係る保護者の負担軽減を図る。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
西紋地区言語治療学級の運営費負担	西紋市町村により運営費を負担。
通級に要する交通費の一部助成	西紋地区言語治療学級からの証明にもとづき、児童の通級に係る交通費の一部を負担。（通級した月数×バス料金1回分（往復）を支給）※児童分のみ

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	■ 義務的なもの ■ 全部 □ 一部	保護者負担の軽減と個々の児童がより良い学校生活を送るため、通級費の一部助成は必要である。また、専門に対応する西紋地域での学級運営は必要であることから運営費負担も必要である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■ 達成 □ ほぼ達成 □ 下回る	言語治療学級を維持し、保護者の負担軽減及び児童の早期治療による効果があった。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■ 事業費抑制 □ 人員削減 □ 時間短縮・作業軽減 □ その他	言語治療については、西紋5市町村の広域実施により、効率的事業実施を図っている。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □ 受益者負担がある □ 受益者負担がない □ 受益が一部に偏る ■ その他	言葉の障がいを持つ対象児童について、言語治療の機会が等しく提供された。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
ことばの発達障がいをもつ児童の保護者の負担軽減と児童の学校生活の充実、教育内容の充実に向け、計画どおり事業を進めることが出来た。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
児童個々に障がいの度合いも違うことから、継続した支援が必要である。保護者の通級に係る負担を軽減するために事業継続は必要である。なお、運営費の一部負担については人口や障害児童数、基準財政需要額から算出されている。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）